

ガンバル 我ら 地域おこし協力隊

No.47

大都市圏から地方へ人の流れを作り、将来の定住を目指しながら、地方の活性化への貢献を目指すプログラム「地域おこし協力隊」。彼らの日々の活動を紹介します。
【問】市商工・ブランド振興課（☎77・8722）



新宿では「柳川物語3～有明海の家
苔師～」を上映し海苔をPR



松本市では旬の「あまおう」を販売



柳川ブランドのイメージに合わせ
販売促進用ののれんをデザイン

継続は力なり。

柳川をまるごと伝えたい

こんにちは。柳川の特産品PR担当の上田です。

今年1月の東京浅草でのイベントを皮切りに、2月の雪の季節には新潟県新潟市、長野県松本市、4月には東京新宿と、あちこち飛び回って柳川の商品をPR販売させていただきました。

特に、今年で3回目となる新宿の小田急百貨店への出展は、私が任期直前から携わってきた物産展ということもあり、思い入れもひとしおでした。今回も、有明海産の絶品の海苔や地元で親しまれている味噌や醤油、柚子胡椒といった調味料など、えりすぐりの品を用意しました。3回目の出展ということで売り場では、「今年も来たわよ」、「去年のあの商品はありますか」といった声も聞かれ、リピーターの増加を実感。忙しいながらも楽しく販売をさせていただきました。

お恥ずかしい話、私は柳川に来るまで海苔について本当に無知でした。だからこそ、おいしさの裏側にある「理由」をきちんと知って食べてもらいたいと思います。物産展の企画を

進めるときも、味はもちろんです、商品を通して柳川のまちなちの情報を併せてお伝えすることを心がけています。生産者や事業者、柳川の特産品、季節の行事、おすすめのお食べ物。目には見えませんが、商品だけでなく、何か一つでもお土産を持ち帰ってもらいたいこと、それが一人でもたくさん柳川ファンを増やすことにつながるのではないかと思います。その手助けとなるように、特技のデザインを、ポップの制作や陳列などに生かして、分かりやすい売り場づくりに努めています。今回、販売ブースの中で初めて上映した柳川物語3は、海苔のPRに一役買ってくれました。今度は、売り場で得たお客さんの生の声を柳川の事業者さんに伝えていきたいと思っています。

早いもので、地域おこし協力隊として最後の年を迎えました。退任後も柳川で地に足をつけて生きていけるよう、特技であるデザインのスキルアップを図りつつ、今は夏に東京浅草で行われるイベントに向けて着々と準備を進めています。



上田 恵佳 (33歳)

【プロフィール】東京都目黒区から移住。大学で環境・都市デザインを学び、まちづくり専門員として目黒区の活動を支援していた。平成28年5月から市地域おこし協力隊として市商工・ブランド振興課に所属

柳川にこの人あり

vol.79



柳川市文化協会 自然観察部部长

藤生 桂子さん

藤吉・74歳

ホテルの乱舞を夢見て

「今年のホテルは、多い日には50匹。平成24年の九州北部豪雨以来、最高の数でした」とうれしそうに話すのは、約20年にわたり、中山いこいの森公園にあるホテル水路で、ホテルの世話を続けている藤生桂子さんです。

ホテルとの付き合いは、中山小学校の教頭時代に、当時の教育長の発案で、ホテルを復活させようという取り組みから。藤生さんは、旧三橋町文化協会の自然観察部に所属し、先輩たちから育て方を教わり、見よう見まねでホテルの幼虫を学校で飼育。大きくなった幼虫を、新しく整備された中山いこいの森公

園のホテル水路に放流し、1匹のホテルを飛ばすことに成功しました。以来、自然観察部の活動として、水路にホテルの餌となるカワニナを放流したり、カワニナの餌となる植物を植えたり、ホテルの幼虫を育て中山小学校の子どもたちと放流したりするなど続けてきました。その結果、年を追うごとにホテル水路の環境は良くなり、毎年5月の終わりから6月の始めには1日に15～20匹のホテルが飛ぶようになりました。

九州北部豪雨でホテル復活の取り組みは中断しますが、公園や水路の復旧が進むと、藤生さ

んもホテルの幼虫の放流を再開。3年後には、ホテルの飛ぶ姿がまた見られるようになりました。今年、坂本町の日吉神社の池にもホテルの幼虫を放流し3匹のホテルが飛んだと言います。NPO法人福岡県ほたるの会の副理事長も務め、柳川のあちこちでホテルが乱舞する姿を夢見て、ホテルの世話を続けています。



ホテル水路を観察する藤生さん

もう少し生きてみたいと梅漬ける

大橋ミヨ子 (六合)

取り残した梅の実が二三つ地に転がっている。昔ほど多くはないが梅漬けはこの季節の私だけの行事。物事の具合を塩梅という。梅と塩の量も母からの伝授。いつまでこうしてこの行事ができるかという感慨と来年もその次もというささやかな希望が17音の中にある。 流青

- あの笑顔また抱きしめん拉致家族
作り笑い倦みてのどかな雲に乗る
大声で笑えば見えるものがある
お隣の笑い声にはトゲがある
あの列車きつと笑顔を見せている
あり合わせですと笑顔のおもてなし
遠くから見ると笑顔の鬼瓦
手術後の妻の笑顔に安堵する
年金が孫の笑顔に減っていく
泣き笑い長い道程生きてきた
時忘れ笑いの中のティータム
カジノとは万人が泣き笑み一人
ポケットにいつでも笑顔待機中
紫陽花の色とりどりの笑い顔
ピエロなら悲しい時も笑えるの
笑い声絶えない我が家皆居間へ
笑い合いつもの生活楽しむぞ
笑ったらかつてにみんなも笑いだす
こまったら笑顔でまってる人がいる
- 津留和巳 (六合)
黒田和代 (吉富町)
古賀幸子 (横山町)
鶴岡定子 (茂庵町)
吉開綾子 (筑紫町)
佐藤良子 (蒲生)
江口和子 (今古賀)
甲斐田園一 (吉富町)
佐田輝喜 (明野)
浦 哲之 (栄)
山口房子 (白鳥)
井上勝世士 (豊原)
古賀麗子 (吉原)
野片義博 (新船津町)
山田美代子 (下宮永町)
坂井幸利 (中島)
甲斐田佑貴 (柳河小5年)
古川理緒 (柳河小5年)
江口航史 (柳河小6年)

川柳を募集しています。選句者は梅崎流青さん。7月の課題は「糸」「雑詠」。入選作品は8月1日号に掲載します。

●応募方法 川柳と明記し、自作、未発表の作品(※1人3句以内)に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクスまたは直接、柳川庁舎企画課広報広聴係(☎77・8425、FAX 74・5520)へ、7月15日(必着)までにお送りください。

天に何ある風船の糸が張る

流青